

ねっとわーく



22. 12. 21 No.25

◆今年もあとわずかですね…（今年度の研究をふりかえって）

今年もあとわずかとなりました。4月からをふりかえってみると、怒涛のごとく過ぎ去った日々が思い出されます。事務所訪問に授業改善プロジェクト、そして、自主公開研と、ほんとうにお疲れ様でした。ただ、これほどまでに、授業や教材について語り、実践を積み重ねてきたことは、貴重な経験であり、また、授業を通して、子どもたちがさらに伸びつつあることは嬉しいことだなあと感じています。と同時に、来年度に向けての課題も見えてきました。そのあたりを意識しながら三学期を過ごしていけたらいいですね。

11月29日（月）の研究全体会から

【成果】○予習（先行学習）については、ある程度子どもたちの中でも、よさを実感している子が増えてきた。

○教えることの厳選化を図ることで、一時間のねらいが明確になってきつつある。

○授業の中に、理解度チェックを入れることで、自分がどこまで理解できているかを判断できつつある。

○どこまでを教えればいいのかは、何を考えさせたいのかとつながっている。

【課題→これからの展望】

▲予習での個人差が大きくなっている。スタートでつまずいてはいなか？

→予習をしてきても、生わかり状態ととらえ、やってこなかった子への配慮をする。

▲新しい学習だけが、「知る」段階なのか？既習事項からのスタートもあるのでは。

→指導案の中に、どこまでを教えたのか、考えさせるのはどこかを明記して、参観者にわかるようにしていく。南部スタイルの確立のためにも、創造性があってもよい。

▲それぞれの4つのステージで、「どんな子どもの姿」だといいいのか。そのところのイメージ共有がうすかったのではないか。

→ココは重要なところ。来年度、学校全体で確認していく。より具体的な姿を描く。そこから、よりより具体的な姿への手立てをとっていく。

※自主公開に関しては、子どもの学びの質の変化をとらえていくためにも行っていく。

鈴木先生の講演会関係について

鈴木先生の講演会について別紙のように計画が進んでいます。

もし、鈴木先生にお聞きしたいこと等あれば、鈴木申にお知らせください。事前にメールしておきます。

事務連絡 兼 お願い

・冬休み中に、「研究紀要 第2弾」を作成し、1弾目と合わせて、市内小中学校向けの紀要を作成予定です。

「実践と考察」まだの先生、宜しくお願いします。

先生専用—**研究部**—**H22年度**—**実践と考察**フォルダになります。

・指導案も集めています。実践と考察に関わる指導案入れてください。

先生専用—**研究部**—**H22年度**—**指導案** どうぞ宜しくお願いします。

